

録も参考にした。さらに、このようにして同定した結果を兵庫医大の 49.5 MHz でのモニター観測と比較して最終的な確認を行った。その結果、私の記録からリストアップした 9 例の内 7 例はバーストと確認でき、太陽バーストの同定に大きな自信が持てるようになった。

図 4 は、フレアと関連したバーストの観測例である。12 時 30 分頃にフレアが発生しているが、この時バーストは観測されていない。しかし、よく見るとフレア直後から 10 分程度銀河レベルが低下している。多分、フレアからの X 線による電離層の吸収の増加 (1989 年 11 月号の記事 (前田) 参照) であろう。13 時 40 分頃にまたフレアが発生し、その直後からバーストが観測され、14 時 10 分頃まで約 30 分間続いている。図 5 はフレアと関

連なく現れたバーストの記録である。12 時 50 分、13 時 30 分頃にバーストが見られる。

FT-757 は AGC 機能をカットできないため、強い混信電波を受信すると、混信電波の強度に応じて出力が一時的に低下する (例えば、図 4 の 13 時 15 分あたりに縦線のように見えるのが AGC の影響である)。しかし、天文月報 1990 年 3 月号の記事 (前田) に書かれているように AGC の作動は短時間のことが多く、全体としてみれば、AGC の作動が記録の判別にそれほど影響しないと言える。太陽バーストが AGC の作動に関与したために太陽バーストの同定ができなくなるというようなこともなかった。

おわりに

色々失敗もしたが、なんとか 50 MHz で定常的に観測ができるようになった。太陽活動の活発な今、太陽バーストのモニター観測に重点をおいて今後も観測を続けたい。2 チャンネル以上の記録計を用いて、異なる周波数で観測を行ったり、スペースの関係で今すぐと言うわけには行かないが、干渉計などの実験もやってみたいと思っている。拙稿を読んでいただいた方々からのご意見をいただければ幸いである。

最後に、マイクロ波の記録を送っていただいた国立天文台豊川観測所に感謝致します。また、記録を見ていただき、具体的な指導をしていただいた兵庫医大・前田耕一郎氏にお礼を申し上げます。

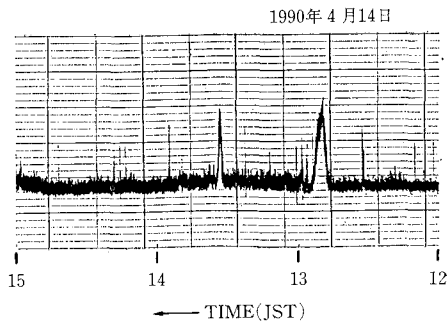


図 5 太陽電波バースト。フレアとは関連なく現れたバーストである。ペンレコーダの記録スピードは 3 cm/h である。

お知らせ

第 21 回「彗星会議」のお知らせ

第 21 回目を迎える「彗星会議」が、東京西部の丘陵地帯、八王子市で開催されます。いろいろな学校のキャンパスが数多い事でも知られる会場付近は緑多い落ち着いた環境です。彗星はもちろん、彗星に関係の深い太陽系の小天体 (惑星間塵や流星, 小惑星) に興味のある方は是非お出かけ下さい。

日 時: 1991 年 3 月 23 日 12 時 30 分より翌 24 日 12 時 30 分頃まで

会 場: 大学セミナーハウス (東京都八王子市下柚木 1987-1)

JR 八王子駅よりバス 20 分, 京王線北野駅よりバス 10 分

内 容: テーマ「彗星と太陽系小天体」

- 招待講演 国立天文台 中村 士先生
- 研究発表 (口頭発表およびポスター発表)
※テーマに沿った研究発表でなくても結構です。数多くの研究発表をお待ちしております。

- 分科会
※初めて御出席の方もお気軽にご参加下さい。

参加費: 5000 円

宿泊費: 5000 円 (一泊二食付)

※宿泊参加をご希望の方は合計 1 万円になります。

詳細のお問い合わせと参加申込用紙の請求は、62 円切手を貼った返信用封筒を同封の上、下記宛にお願いします。

〒250 神奈川県小田原市城山 3 丁目 8-13-607

秋澤 宏 樹